

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぱんの木きっず			
○保護者評価実施期間	R7年 2月 5日 ~ R7年 3月 15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	R7年 2月 5日 ~ R7年 3月 15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 4月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムを固定化しないように工夫している。	集団プログラム、個々に合わせた個別課題や身辺自立訓練等成長に合わせた取り組みを行えるようにしている。	集団プログラム、個別課題等の内容をスタッフ間で話し合いを行い、改善点をまとめて実施し、個々の成長に合わせた支援プログラムをより良いものとしていく。
2	意思疎通や情報伝達を取りづらい子どもたちへの配慮に工夫をしている。	視覚的にわかりやすくイラストや写真をつかいながら活動しており、一日の流れや活動プログラムの順番など把握してもらいやすいように個々に合わせた工夫している。	よりスムーズに意思疎通を取るために適切な声かけや身振り手振りのジェスチャーを簡単にして関係性を向上につなげていく。

3	日頃から保護者様と子どもの状況を伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解をしている。	事業所で取り組んでいる内容や活動の中で意識しているところを保護者様に説明し、お家で意識されていることなどもお聞きしたうえで、子どもの自立に繋がるように改善策や支援方法を共有している。	より適切な支援を行えるようにスタッフ間で研修に参加したり、研修内容を共有できるよう話し合いをしっかりと行っていく。
---	--	---	---

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の方々との交流や関わりが希薄になっている。	地域の方々と関われる場をなかなか設定できていない。	地域での公園遊びや地域の消防署、警察署の方々に協力してもらい、実際に防災訓練や自立に向けた勉強などを教えていただきながら、地域の方々と関われる場を設定する。
2	地域自立支援協議会への参加が不足している。	協議会の開催日などの情報が不足している。日々の業務等が優先になっている。	協議会児童の部が開催されている時間帯の参加が難しいことが多いですが、勤務体制を見直し、参加する機会を設けていく。
3	保護者同士の連携を支援できていない。	保護者が集まる機会を事業所として時間を作れず、開催することができていない。	保護者会等の集まれる機会を設けることが出来ていませんが今後は親子、保護者同士の交流が行えるイベントの開催を考えている。